とびうめ 第1号［平成28年8月］…… より良い未来のために ……

とびうめ

No. 1

目 CONTENS 次

会長挨拶 ―― 2
新役員紹介　各部会・委員会組織図 ―― 3
平成28年度事業計画 ―― 4
研修報告 ―― 8
スポーツ大会 ―― 9
新加盟施設紹介 ―― 10

特集 熊本地震をうけて

【事業所取り組み紹介】
小池学園、第一野の花学園、
あかね園、あおぞら

会　長　挨　拶

福岡県知的障害者福祉協会　会長　木髙　徳典

7月26日(火)未明に発生した、神奈川県相模原市の「津久井やまゆり園」でおきた殺傷事件によりお亡くなりになられた方々へ衷心よりご冥福をお祈りし、ご家族の皆様にはお悔やみを申し上げます。また、負傷された方々に心よりお見舞いを申し上げます。

容疑者の卑劣な行為は、決して許すことができません。本来、福祉施設は利用者とそのご家族が安心して、安全で快適なそれぞれに合った生活を送れることを保障されていなくてはならない場所でならなければならず、このような事件を二度と起こさないためにも、どのような対策が必要か十分に考慮する必要があります。

こうした中、7月27日に厚生労働省より「社会福祉施設における入所者等の安全の確保について」が発出されました。内容は、

1. 日中及び夜間における施設の管理・防犯体制、職員間の連絡体制を含めた緊急時の対応体制を適切に構築するとともに、夜間等における施錠などの防犯措置を徹底すること
2. 日頃から警察等関係機関との協力・連携体制の構築に努め、有事の際には迅速な通報体制を構築すること
3. 地域に開かれた施設運営を行うことは、地域住民との連携協力の下、不審者の発見等防犯体制の強化にもつながることから、入所者等の家族やボランティア、地域住民などとの連携体制の強化に努めること

とされています。各事業所におかれましては、防犯措置等、安全管理体制の再点検と必要な対応を進めていただきますようお願いいたします。本会といたしましても、各地区でそれぞれの事業所がこのような関係機関等との連携体制構築をスムーズに進めるために協議を重ね、早急に対応できる環境づくりに努めてまいります。

また、4月14日夜及び16日未明に発生しました熊本県を震源とする大地震の際には、当面の緊急的な支援として、被災地の福祉協会に対し支援物資の提供を行うための緊急の呼びかけに対し、会員施設の皆様には迅速にご対応いただきました。ご協力に深く感謝申し上げます。

今回のこのような痛ましい事件や大規模な災害の発生、社会福祉法人制度改革、障害者総合支援法及び児童福祉法の一部を改正する法律の成立等々、私たちを取り巻く環境が大きく変化する中、迅速かつ正確な情報収集・提供に努めてまいりますので、皆様におかれましては、引き続きご指導ご協力をよろしくお願いいたします。

今月の表紙

熊本災害救援活動について

福岡県知的障害者福祉協会 副会長　田島　茂敬

平成28年４月14日夜及び16日未明に発生しました熊本県を震源とする大地震によって熊本県において甚大な被害が出ております。

本会では、被災状況と熊本県福祉協会の意向を確認し、早急に生活支援に向けた支援物資の提供を行いました。

当日は、会長初め役員及び役員施設の職員総勢30名で大型トラック６台を使用し、飲料水20トンと大量の食糧を輸送しました。

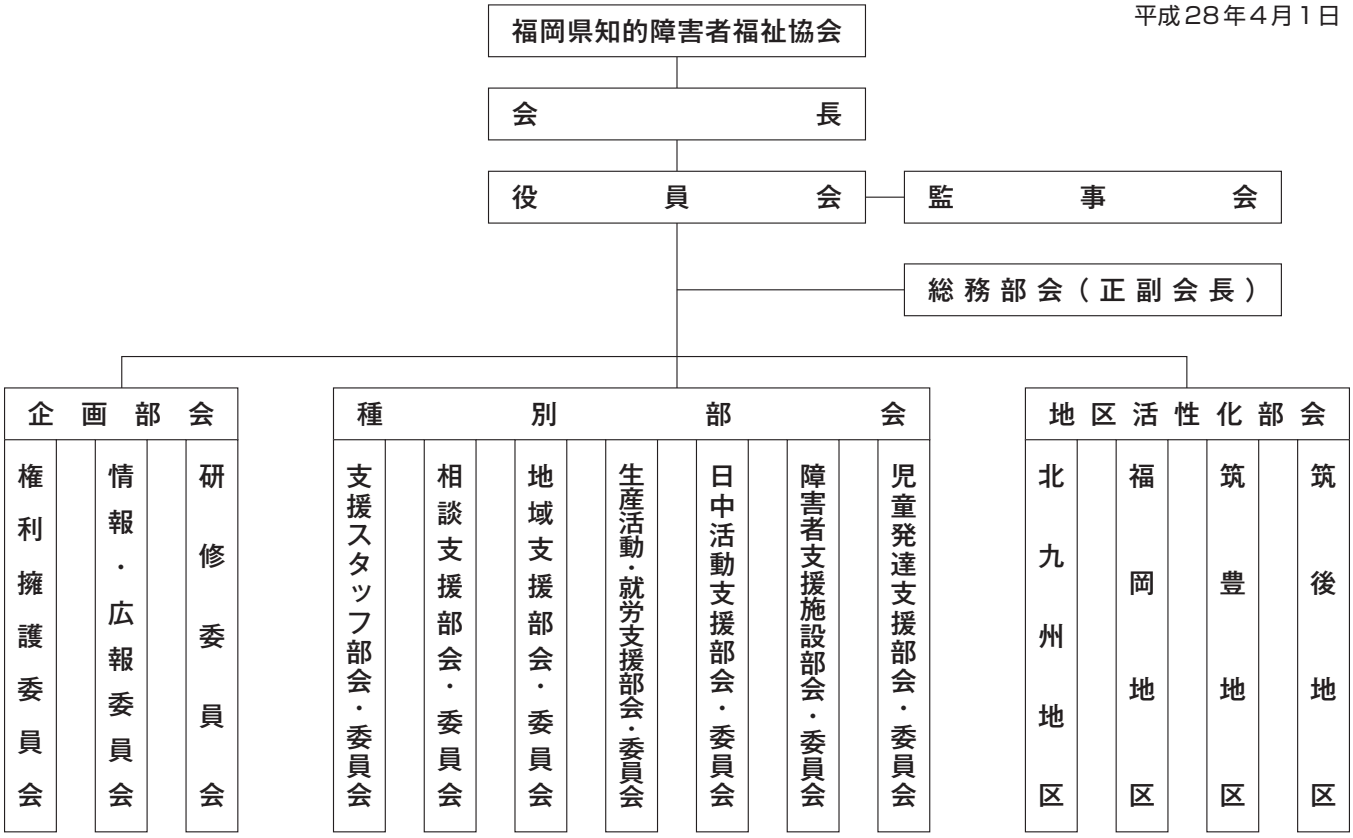
会員施設の皆様には、救援体制の迅速な対応が図られたことに心より御礼申し上げます。

新役員紹介

石井　邦佳／中原　和人／仁田原　剛／木戸　靖二／芦馬　謙二／岩井　眞紀子／野村　祐治／福田　敬介
田島　茂敬／竹藤　望／木髙　徳典／渕上　忠彦／末原　浩之　（欠席者／枡田　充生）

福岡県知的障害者福祉協会　各部会・委員会組織図

平成28年4月1日



平成28年度事業計画

福岡県知的障害者福祉協会

1　基本方針

われわれ知的障害施設・事業所には、利用者の障害特性に応じたニーズを的確に把握するとともに、これまで培ってきた専門性を発揮し、利用者本位の視点に基づく障害福祉サービスを提供することが求められている。

また、障害者差別解消法や社会福祉法人制度改革等、利用者や事業者を取り巻く環境が大きく変化する中で、社会福祉法人としての役割と責務を自覚しながら、「障害者総合支援法施行３年後の見直しについて」（社会保障審議会障害者部会　報告書）を踏まえ、健全な事業経営・推進に努めなければならない。

本会では、こうした制度改正の動向を注視しながら、会員相互の緊密かつ有機的連携のもと、迅速な情報提供に努めるとともに、障害者の権利擁護・虐待防止を基本とした障害福祉サービスの提供と質の向上に取り組まなければならない。

さらに、利用者への直接的なサービスに留まらず、各種関係機関等と連携し、今後高い公共性と確固たる倫理観を持ちながら、増大する福祉ニーズに的確に対応すべく、さまざまな地域公益活動にも積極的に取り組んでいかなければならない。

こうした社会的要請に応え使命を果たしていくために、次の重点目標を掲げ事業を実施する。

2　重点事項

（1）障害者差別解消法及び障害者虐待防止法への対応

本年度から施行される障害者差別解消法の福祉事業者向けガイドラインの徹底と権利擁護委員会を中心とした、利用者の権利擁護の姿勢を本会倫理綱領において明文化するとともに、利用者の自己決定と自己選択を尊重し、権利侵害の防止及び虐待の根絶に向けた環境整備や、安心安全に生活できる質の高いサービスの提供に努めるための研修等を行う。

（2）社会福祉法人改革への対応

地域社会に対して実践を通じて社会福祉法人としての存在意義への理解促進を図ることが求められていることから、経営組織のガバナンスの強化、事業運営の透明性の向上、財務規律の強化、地域における公益的な取組等に的確に対応していくための協議・検討を行う。

（3）「障害者総合支援法施行３年後の見直し」への適切な対応

昨年 12 月に社会保障審議会障害者部会がまとめた報告書「障害者総合支援法施行３年度の見直し」について、その趣旨を正しく理解し、利用者本位のサービス提供を行うため、実践の中での情報共有や課題検討、協議を進める。

（4）職員の資質向上を図るための研修の充実と資格取得のための研修機会の確保

利用者本位の視点に基づく障害福祉サービスを提供するにあたり、職員の資質の向上のため、研修内容の充実を図るとともに、施設の体制強化のための資格取得研修機会の確保を図るための取り組みを行う。

（5）優先調達推進法に伴う取り組み

県及び市町村等と連携し、更なる工賃向上に向けた「まごころ製品」に対する発注促進への取り組みや障害者の就労促進につながる取り組みについて研究・協議を行う。

（6）福祉・介護職等の人材確保および育成に向けた取り組み

福祉・介護職等の人材確保・育成に向けて、福祉・介護職の魅力を高める取り組みを福岡県、福岡県社会福祉協議会と連携し、積極的に採用活動を展開する。

3　会議の開催

（1）役員会
（2）総　会
（3）監事会
（4）総務部会（正副会長会）
（5）企画部会
ア　研修委員会
イ　情報・広報委員会
ウ　権利擁護委員会
（6）種別部会
ア　児童発達支援部会・委員会
イ　日中活動支援部会・委員会
ウ　障害者支援施設部会・委員会
エ　生産活動・就労支援部会・委員会
オ　地域支援部会・委員会
カ　相談支援部会・委員会
キ　支援スタッフ部会・委員会
（7）地区活性化部会
ア　福岡地区施設長会
イ　北九州地区施設長会
ウ　筑豊地区施設長会
エ　筑後地区施設長会

4　組織強化への取り組み

（1）相談支援事業の充実・強化

障害者が必要とする適切なサービスの利用に結びつけるため、相談支援事業の充実や事業所間および他の関係機関との連携強化に努める。

（2）各種別部会・委員会の活性化

各種別の特性に沿った部会・委員会の活性化を図るとともにそれぞれの課題に対し研究・協議する。

（3）地域性を考慮した組織づくり

組織の活性化を図るため、４地区で施設長会議（研修）を実施し、協会運営への参画や会員拡充を促すための方策を研究・協議する。

（4）本会会員及び行政・各種関係団体等との連携・情報交換

災害時等、緊急時における会員間での支援協力体制の強化を行うとともに、積極的に行政・各種関係団体等との連携・情報交換を行う。

5　研修事業・スポーツ文化交流事業

中・長期的視点に基づく研修等事業内容や実施方法等についての検証を行いながら、各事業の円滑かつ効率的な運営を行う。また、会員施設の利用者及び職員の繋がりを積極的に促進する。

（1）研修事業
ア　施設長研修会
イ　新任職員研修会
ウ　専門分野に関する研修会
エ　その他必要な研修会

（2）スポーツ文化交流事業

ア　第３回ティーボール大会	5 月 19 日	雁の巣
イ　第３回グラウンドゴルフ大会	5 月 19 日	雁の巣
ウ　第 46 回ソフトボール大会	5 月 19 日	雁の巣
エ　第 22 回ソフトバレーボール大会	6 月 30 日	かすやドーム
オ　ディスコパーティー 2016（仮称）	10 月下旬	筑豊地区
カ　障害者週間啓発活動	12 月３日～９日	各 地 区

6　広報・啓発事業への取り組み

（1）ホームページ等を活用した各種情報提供の充実

障害者福祉施策や社会福祉法人等に関する情報の収集・分析・提供に努める。

（2）広報誌の発行

本会広報誌「とびうめ」を発行する。

7　全国・九州地区研修会等（福岡県開催分）

（1）全国関係

ア　全国グループホーム等研修会	7 月 21 日 ~22 日
イ　生産活動・就労支援部会職員研修会	11 月 18 日 ~19 日

（2）九州地区

ア　親善球技大会	10 月 13 日 ~14 日
イ　日中活動支援部会研修会	平成 29 年２月上旬
ウ　職員研修大会項目検討会	未定

●利用者やご家族の方に知っていてほしい大事なコト！

特集 熊本地震をうけて

つつじヶ丘学園（熊本県）　恒松祐輔

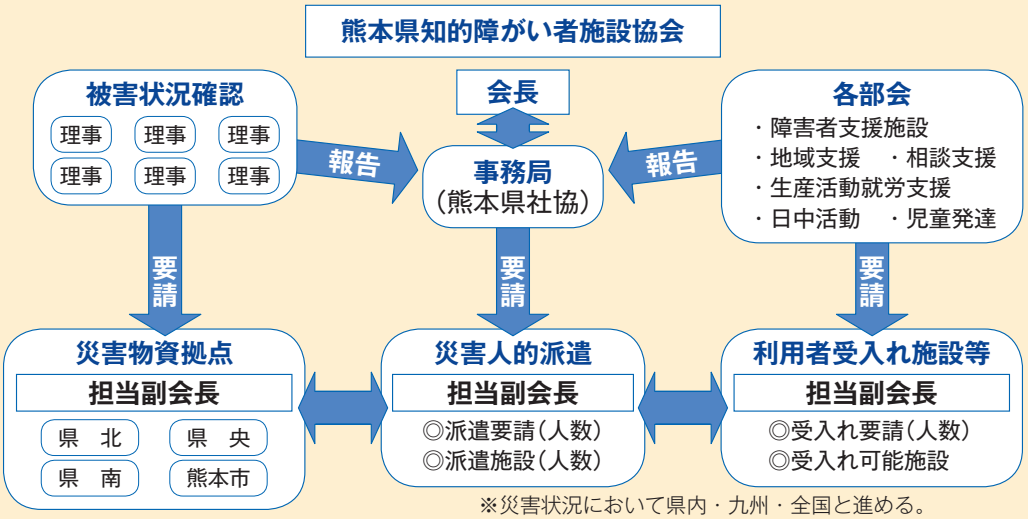
この度の熊本地震におきまして亡くなられた方々へ心よりご冥福をお祈りするとともに、被災された方々へお見舞い申し上げます。

４月14日21時26分のM6.5（震度７）の前震、16日１時25分のM7.3（震度７）の本震を含め、震度６以上の地震が７回、震度１以上の地震が1700回を超える地震が熊本、大分を襲い、今も揺れが続いており、いまだ不安な日々を過ごしている方も少なくありません。

私自身、幸い被害がない地域であった為、会長、副会長、事務局と連携を取りながら前震の翌日、更に本震の翌日に被害があった施設へ備蓄していた水や食料の物資搬入、及び、状況確認に現地に入りました。並行して協会としては被害状況の把握を前震の翌日以降定期的にメール、FAXで調査を行い関係機関と情報の共有を行いましたが、前震、本震ともに夜間であり、週末であったこと、更には各機関ともに被災して混乱している状況で被害状況やニーズ把握は困難を極めました。

被害の報告は、断水、停電、建物の倒壊、道路の寸断、地盤の亀裂、スプリンクラー破裂、飲料水や食料の不足など多岐に亘りました。中には職員自身も被害に遭いながら家にも帰れず施設で利用者支援をし、更には地域の避難住民の為の炊き出しやお世話をしている職員の姿もありました。水や食料はコンビニやスーパーから姿を消し入荷の見通しもないことがほとんどでした。また、施設であっても避難所の長蛇の列に並ばなければならない状況で、やっとの思いで支給されても利用者に一つのおにぎりが渡る程度で職員分など到底及ばない状況もあったようです。

そのような中、施設や避難所ごとに刻々とニーズは変化していきました。



※災害状況において県内・九州・全国と進める。

「水や食料がない」という２日後には「水や食料は足りているが味のついた飲み物やトイレ回りや衛生用品、オムツなどが足りない」「職員が全く休めていない」など調達している間に次のニーズに変化していき、支援が追いつかず受容と供給のギャップが発生しました。このことは東日本大震災でも教訓として語られたことで、私自身今回の熊本地震で活かしきれていない部分でした。

水や食料などの「短期的支援」、嗜好品や衛生用品、人的支援などの「中期的支援」、義捐金や修繕を含めた事業や生活の再開などの「長期的支援」。そして、それらの先の見通しをもった支援体制をいち早く整え、状況把握と情報発信を行い、物資や人の支援を効率よく結びつける協会としての「組織的支援」が今回の地震を経験し必要だと感じました。

そのような中、本震のすぐ後には九州各県より物資供給の申し出があり、その２日後には県内に数か所の物資拠点を設置し、被災施設へ物資供給が出来るようになりました。その供給体制は、タイムロスも少なく効率的であり供給過多にもならず九州ならではの素晴らしい体制であったと思いました。

今後、我々福祉施設は、災害対策を抜本的に見直し、災害時の計画、訓練の実施、備蓄品の充実を図り、本当の意味で地域の拠点となり得る災害に強い施設作りが求められます。一方、協会や組織では、会員施設の一歩先の支援を行うことが必要で、非常時にこそ協会の動きや支援を会員に見せることで施設の先の見通しにも繋がるのだと感じることが出来ました。

まだまだ、被災地域では平穏を取り戻す目途は立っておらず揺れも続いています。熊本地震を振り返るには早いかもしれませんが、それでも少しずつそれぞれの歩みも始まっています。

最後に今回の地震に際し、福岡県をはじめ九州各県、全国各地よりご支援をいただいておりますことに改めて感謝申し上げます。

「九州は一つ」を災害時にも発揮できる体制を肌で感じることが出来ました。

社会福祉法人 茜会

障がい者支援施設　あかね園

〒820-0704　福岡県飯塚市阿恵1633

地域を耕す

平成４年４月旧筑穂町（現飯塚市）に誕生した「障がい者支援施設 あかね園」も、皆様方のお力添えをいただきながら24年目を迎えております。

法人 茜会の取り組みとして、地域で愛される施設の一つとして町が主催する夏祭りや文化祭参加協力を始め、地元３小学校・中学校との交流を続けて参りました。こどもたちに障がいを理解していただき、心の優しい思いやりのある大人へと成長を願う中、「福祉体験学習」も永年継続し、「創立20周年記念」では“あなたに出会ってよかった”というタイトルで小学生と共にミュージカル上演が叶いました。

地域社会での差別なき社会参加を願いながら、地元の神社や近隣の清掃活動の継続あるいは行政区の中では15組の住民として参加でき、ご利用者が地域で暮らす皆さんに“信頼”をいただくまでになりました。

さて、入所支援施設　あかね園では“ご利用者の個性を尊重し、夢の実現”に向かって、様々な分野での取り組みを実践してきました。ご利用者の皆様の大切な“命”と“ライフステージ”を支援している私たちですが、自分の生きてきた人生が充実したものとなれることを基本方針にもちながら、“沢山の社会体験”を積み重ね、これからもどの様な時代がやってこようとも、夢の実現に向かい個人の可能性を思う存分伸ばしていただく支援をしていきたいと思います。

予測できない方向性の見えにくい昨今ではございますが、ジェントルティーチングに基づいた、“愛ある温かな支援”を基本としてこれからもご利用者の皆様、保護者や成年後見人様にもご協力をいただきながら、地域住民の皆様方、行政関係者と共に地域を耕し、課題発見と解決にむけて進んでいけたらと願っております。

社会福祉法人 筑陽会

発達障害者支援センター　あおぞら

〒834-0122　福岡県八女郡広川町一條1621-2

事業所紹介（筑後地区）

発達障害者支援センター「あおぞら」は福岡県からの委託を受けて、社会福祉法人筑陽会が運営しています。

業務内容は、直接支援および間接支援、啓発活動の３つです。ご本人やご家族からの相談はもとより、地域の関係者（保育士・教員・保健師・ヘルパー・施設職員等）からの相談支援も行っています。

また、センタースタッフを講演会や研修会の講師として派遣し、多くの方々に発達障害の正しい知識を理解して頂く活動も行っています。

発達障害のある方が、安心して地域で暮らしていけるようになることを目的に専門の相談員がサポートしています。

事業所取り組み紹介

～あんなことこんなこと～

北九州市立
障害児入所施設　小池学園

〒808-0132　福岡県北九州市若松区大字小敷583-1

発達支援セミナーを開催しています！！

小池学園では平成16年から、著名な先生を講師に迎え、療育・教育機関だけでなく、行政や市民の方に広く呼びかけ、セミナーを行っています。

開始当時は最新情報を聞く機会が少なかったため、450人定員に500人を超える応募がありましたが、同様の研修が多く開催されるようになった現在でも、200人以上の方に参加していただいています。

今年度は７月10日に例年同様、大阪教育大学名誉教授の竹田契一先生をお迎えし、「特別支援教育の最新情報と知っておきたい合理的配慮」という演題で講演頂き、大変好評でした。

竹田先生ってご存じですか？中居正広さんの番組に時々出ているので、ご存じの方も多いのではないでしょうか？関西人らしい楽しい話術で、いつも「あっ」という間に３時間が過ぎてしまいます。

第１回から参加している市民の方もおられるため、今後もニーズに応じた新しく有用な情報を発信していきます。

社会福祉法人 野の花学園
障害者支援施設　第一野の花学園

〒819-0165　福岡県福岡市西区今津4820-2

和太鼓活動で地域を創る

「地域に貢献できる活動を利用者、職員で一緒に作る」ことを考えて、16年前に野の花太鼓を結成しました。

このチームは、利用者と職員別々の演奏曲があり、和太鼓特有の力強さと、あたたかさもあるステージができるのが特徴です。

今後も和太鼓活動を通じて、利用者の「活躍する場を作り」、そして「地域の宝」となり続ける様に、地域住民の一員として活動していきたいと思います。

Report

研修報告

REPORT

平成27年度

第2回専門職員研修会

平成28年 3月4日(金)

講師に福岡市障害者相談支援機能強化専門員・福岡市東区障害者相談支援センター主任コーディネーターの池田顕吾先生をお迎えし開催しました。研修会はテーマを「これから求められる相談支援専門員としての役割」として講義、演習（グループワーク）から成るものとしました。本協会会員施設のほか、NPOや株式会社等で障害者相談支援事業を運営している事業所にも開催案内をして、当日は実際に相談支援専門員として実務をしている人をはじめ社会福祉協議会の地域福祉担当の職員等々も出席していただきました。

地区・地域ごとにグループ分けした演習では、ある事例を通して自分たちの地域の課題について意見交換がなされました。単にサービス等利用計画の作成などをするだけでなく、相談支援専門員として、地域福祉に貢献できる可能性などを考え、今後障害福祉の担い手となるための大変刺激的な良い機会を得ることとなりました。

第3回施設長研修会

平成28年 3月11日(金)

講師に日本知的障害者福祉協会より副会長 菊池達美氏をお招きし、「社会福祉法人制度改革」について講演いただきました。社会福祉法人制度改革については、各法人の関心が高いこともあり、111名の参加がありました。評議員・理事の選出についてや、地域における公益的な取り組みについてなど、今後の法人の取り組みの参考になる貴重なお話を伺う機会となりました。

平成28年度

第1回施設長研修会

平成28年 5月11日(水)

研修会は「行政説明」と「講義」があり、講義では「駅の役割とJR九州の取り組み」と題して、九州旅客鉄道株式会社 鉄道事業本部営業部 担当部長の三浦基路氏よりお話を伺いました。最近は「社会福祉法人制度改革」等についての関心が高い中、JR九州の取り組みや、三浦氏の大分駅長時代のお話はとても興味深く、「駅の役割」と「施設の役割」をリンクさせながら拝聴させて頂きました。地域を元気に!!という結びで、九州新幹線全線開業のCMには感動させられました。

新任職員研修会

平成28年 7月4日(月)

午前の講義では、北九州市立大学文学部 人間関係学科 教授 小賀久氏により「権利擁護・障害者差別解消法等について」と題して、講義がありました。また、午後の講義では、株式会社NCBリサーチ&コンサルティング 研修事業部 次長 吉田美穂氏により「新任職員の接遇・マナー研修」と題して、講義がありました。どちらの講義も、障害福祉に携わる我々、新任職員にとって、重要かつ必要な講義で、有意義な研修でした。このことを今後の支援に生かしていきます。

Sports スポーツ大会

●利用者の皆さんが頑張ったスポーツ大会の様子や成績などをお知らせします。

第46回 ソフトボール大会

平成28年５月19日(木)

雁ノ巣レクリエーションセンターで、第46回ソフトボール大会を開催しました。当日は晴天に恵まれ絶好の大会日和となりました。

今年はAパート8チーム、Bパート6チームが参加しました。選手は日頃の練習の成果を発揮、白熱したプレーで会場の観客・応援団を大いに沸かせました。

結果はAパート優勝 健康荘、2位 第二・第三白梅学園、３位 第一野の花学園、Bパート優勝 田主丸一麦寮、2位 ほっとスペースあさくら、3位 グループホームいなみつとなりました。

参加施設よりご協力いただきました実行委員、審判の皆さまをはじめ、関係者の方々のご協力有難うございました。

第３回 ティーボール大会

平成28年５月19日(木)

風かおる５月、さわやかな季節の中、雁ノ巣レクリエーションセンターにて３種目同時で開催したティーボール大会。同日開催となり皆さんはどの種目に参加しようかと悩まれたのではないでしょうか？

県の福祉労働部 障害者福祉課指定指導係 係長 川上様の始球式により始まり、６チーム参加のトーナメント方式で試合が行われました。

試合結果は優勝 月の輪学園、2位 若久緑園、3位 清浄学園となり、３チームは今年度開催される九州大会(福岡大会)の出場権を獲得しました。さらに練習を積み重ね、チームワークを強化し九州大会に臨んでほしいと思っております。

参加された選手、職員、関係者の皆さまお疲れ様でした。

第３回 グラウンドゴルフ大会

平成28年５月19日(木)

雁ノ巣レクリエーションセンターにて、グラウンドゴルフ大会を開催しました。今年で3回目を迎え、13チームでの大会となりました。各チームともに日頃の練習の成果を発揮しようと、真剣な表情でラウンドに臨んでいました。天候にも恵まれ、実行委員、参加施設職員の協力もあり、順調な試合運びとなりました。試合結果は、優勝 笠置寮B、2位 笠置寮A、3位 北野学園となりました。今年度は九州地区親善球技大会が11月に福岡県で開催される予定であり、上位３チームの九州大会での活躍が期待されます。

第22回 ソフトバレーボール大会

平成28年６月30日(木)

梅雨明け近付く中、かすやドーム(糟屋総合体育館)にて第22回ソフトボール大会を開催しました。14チームが参加しAパート８チーム、Bパート６チームに分かれ、予選リーグ、トーナメント方式で試合が行われました。試合が進むにつれ、体育館の中では選手の声、応援する声が響き渡り、白熱した試合が続きました。

結果はAパート優勝 桂木とくのみ園、2位 第二・第三白梅学園、3位 さくら学園、Bパート 優勝　天心園 2位　グループホームいなみつ　3位 なのみ工芸 となり大会の幕を閉じました。

来年も今年以上の結果と、交流を深めていくことを目的として参加していただきたいと思っております。参加選手、職員の皆さまお疲れ様でした。

新・加・盟・施・設・紹・介

（平成28年１月～６月に加盟した施設）

社会福祉法人 日本傷痍者更生会　希望舎

希望舎は、岡垣町の海老津で開所しており、ご利用者様が望む将来像を理解し、実現出来る支援を目指して、安心・信頼・感動の出来るサービス提供を行っています。事業内容は、施設入所支援・生活介護（生産活動）・就労支援Ｂ型（通所のみ）・短期入所・日中一時支援です。また、希望舎内に相談支援事業所リアンもあります。地域の皆様に愛され、気軽に相談出来る施設を目指してまいります。

▲作業の様子

▲園芸の様子

社会福祉法人 日本傷痍者更生会　学童ふれ愛

学童ふれ愛は平成20年岡垣町の委託事業としてスタートし、宿題支援や遊びを通したスキルや社会性の習得を基本に個別支援をしています。積極的に公園や図書館に行ったり、行事に参加し、『地域』を意識しています。またご家庭の事情に配慮し、開所時間など柔軟に対応しています。児童の支援やご家族のケアの二本柱で運営しています。また総合福祉施設として一つの建物の中で高齢者と児童が一緒に活動しているのも特色のひとつです。

▲余暇活動の様子

▲昼食作りの様子

社会福祉法人 山の子会
放課後等デイサービス　やまのこ

当事業所は、学童（小学生～18歳まで）を対象とした定員10名の放課後等デイサービス事業を、平成27年４月から行っております。子どもたちは、地域の特別支援学校や小学校の支援クラスの学童が利用しております。山に囲まれ自然豊かな環境のもと、住宅地の中にある戸建ての家をリフォームした屋内では、まるで田舎のおばあちゃんのお家で過ごしているようなアットホームな落ち着きのある雰囲気となっております。戸外に出れば併設した行橋みらい学園のグラウンドがあり、サッカーや砂場遊び、自転車乗りなどを楽しんでおります。自然の中で過ごすことで豊かな心、コミュニケーション能力が育ち、日々子どもたちの成長する姿が見られます。また、保護者や地域、学校や関係機関との連携を大切にし、自立に向けた支援も行っております。

▲やまのこ入口

▲学習支援の様子

▲活動の様子(ピザ作り)

▲活動の様子

社会福祉法人 山の子会
相談支援事業所　すみれ

「相談支援事業所すみれ」は、平成26年11月に指定特定相談支援事業・障害児支援事業所として開始しました。現在は、児童発達支援センターや放課後等デイサービスを利用する児童のサービス等利用計画の作成や継続サービス利用支援を行っております。

今後も関係機関などと密に連携を行いながら、ご家族を含めた総合的なサポートを行っていきたいと思っております。

社会福祉法人 福岡愛育福祉会
共同生活援助事業所　井田原ホーム

井田原ホーム（定員７名）は、平成23年４月に糸島市志摩井田原に土地・建物(鉄骨２階建)を購入してオール電化などの改修工事を行い、平成24年４月１日に開所しました。現在男性２名・女性３名が利用されています。利用者の方は、日中は就労継続Ｂ型事業所に行かれ、一生懸命お仕事をしてホームに帰って来られています。スタッフみんなが「利用者の方がお仕事の疲れを癒し、ホッとできる暮らしを提供すること」をモットーに支援させていただいています。

▲井田原ホーム外観

▲井田原ホーム内観

【知障協ホームページ】
http://www.fukuoka-chiteki.jp

▶知障協では、ホームページによる情報提供を行っています。随時更新を行い、より良いサイトにしていきますので、何かお気づきの点などがございましたら、事務局までご連絡ください。

とびうめ発行　福岡県知的障害者福祉協会　会長：木髙　徳典　春日市原町3-1-7　福岡県社会福祉協議会内　TEL092-584-3377